



◀生活福祉交通  
「筆の都・熊野町 おでかけ号」

## Q 生活福祉交通について



荒瀧穂積議員

**A** 町の活性化や高齢者の事故減少にも  
期待が寄せられる (三村町長)

**A** 昨年度、高齢者など交通弱者の移動手段確保を目的に生活福祉交通の運行計画を策定した。それを元に、今年7月から半年間、実証運行を行う。

実証運行は、既存の路線バスの存続を前提としながら町内を3地域に区分し、9人乗りジャンボタクシーにより無料で運行するものである。住民生活の利便性が高まり、外出の機会が増えれば、町の活性化にもつながるのではないかと考えている。また、警察からも、高齢者の事故減少に期待が寄せられている。

ただし、試験運行であり、乗車率、利用率が悪ければ本格運行には移行できないため、皆さんのご理解とご協力をお願いする。

**Q** 高齢化が進む中、交通便利を考えるという意味で、プランを立てられたが、その内容の説明を求める。



▲筆の里工房内のショップ

## 民法正則議員

## Q なでしこジャパンの経済効果と(財)筆の里振興事業団の運営

**A** 筆の里工房等の売上げから町内にも経済波及効果があったと思われる (石井総務部参事)

**A**

- ① 昨年度の売上げは、筆の里工房が約1.5倍の1億4700万円、セレクトショップは約4.7倍の6880万円。町内にもそれなりの経済波及効果があったものと思われる。
- ② 昨年度は前年比約14%減少の7万6365人。
- ③ セレクトショップは、売上が堅調に推移。K-JINは、絵てがみ事業に関連した収益により継続できると考えている。
- ④ 初年度(約8カ月間)は、売上最低目標を2200万円程度と見込んでいる。

**Q**

- ① 筆の里工房及び広島駅ビルセレクトショップの売上と町内の経済効果は。
- ② 筆の里工房の入館者は。
- ③ 広島駅ビルセレクトショップとK-JINは、今年度から財団が補助なしで運営しているかどうか。
- ④ 東京銀座のアンテナショップの収支見込は。

## 民生部門



藤本哲智議員

## Q 高齢化に備える施設の充実

**A**

- ・ 今期は地域でのケア体制の充実を図りたい (清代民生部長)
- ・ 保険料とのバランスを見ながら考えていきたい (三村町長)

**A** 現在、特別養護老人ホーム等の入所者数が、要介護2〜5の認定者数に対して45%を超えており、県の基準37%を上回るため、第5期介護保険事業計画では施設整備ができなかった。一方、計画策定時のアンケートでは、要介護状態となった場合でも自宅での暮らしを望む方が全体の8割超の結果であったため、今期は身近な地域でのケア体制の充実を図りたい。

また、施設整備を行うと保険料の上昇に影響するが、待機者の状況も踏まえ、その辺りのバランスを見ながら、少しずつではあるが整備していきたい。

**Q** 本町の高齢化上昇率は、他の市町に比較してかなり高いと聞く。今後の短期、中期、長期の各種施設の充足はどうか。

## 山野千佳子議員



▲東京銀座の広島県アンテナショップ内の熊野筆セレクトショップ

## Q 東京銀座の広島県アンテナショップへの熊野筆の出店

**A** テナント料として売上金額の7%を支払う (石井総務部参事)

**A**

- ① 県は以前新宿にショップを開設していたが、一昨年に閉鎖した理由は。
- ② 今回の計画内容や予算、将来の見通しは。
- ③ 町の費用は。
- ④ 経営不振の際の責任は。

① 賃借料の上昇、飲食店の撤退、修繕費等の増大などが理由のようである。

② 県産品の販路拡大や販売額の増加、生産者・事業者等の生産拡大を図るとともに、観光客増加などの効果を見込んで出店に至ったようである。費用は賃貸料が全体で年間1億5千万円と聞いている。

③ テナント料として売上金額の7%を支払うが、今年度の初期費用や人件費については県の補助金で賄う。

④ 平成25年度以降は財団法人筆の里振興事業団で運営するが、今後の経営状況によっては、営業時間の短縮や委託販売も検討できると考えている。